

☆見えてきた自衛隊の実態

自衛官による不祥事は後を絶たず

◆最近、陸上自衛隊饗庭野演習場（滋賀県高島市）に隣接する国道近くに迫撃砲弾が落ち、乗用車が破損した事故がありました。民間人の命を危険に晒すほどの訓練が必要であるとは到底考えられませんし、許されるものでもありません。

◆特別国家公務員である自衛官が、泥棒や飲酒運転、ストーカー行為や身分証の偽造をするなど犯罪行為は枚挙に暇がありません。

自衛隊の三つの任務

◆防衛省のホームページを見ると、防衛省・自衛隊の任務は、「さまざまな事態への対応」「日本の防衛」「安全保障環境の改善への取組」の三つが挙げられています。一見、もっともらしく書いてありますが、権力者にとって極めて都合のよい、どのような解釈が出来る表現に留めている事がわかります。

死と隣り合わせの危険な任務

◆自衛官の任務は、命の危険をも顧みず、作戦や目的の達成が優先される場合が多々あります。有事の際にはなおさらの事です。そんな状況に身を置く事を賛美するのは、戦前・戦中、国のために命を軽視する軍人魂を彷彿とさせます。

◆二〇〇三年一月から二〇〇九年二月まで続いた自衛隊のイラク派遣では、帰国後も続く緊張や不安、恐怖の末、二十八名が自ら命を絶っています。ところが防衛省はイラク派遣と自殺は直接の因果関係があるかどうかかわからないと言うのですから亡くなられた方の無念が悔やまれてなりません。

膨れ上がる防衛予算

◆一九八五年四月三日の朝日新聞朝刊に当会の代表委員を務められたM氏が「一〇%以内でも軍拡になる」と題して投稿しました。八五年当時、防衛費が三兆一八〇億円にまで膨れ上がったため、GNP一%枠を超える可能性を指摘し、軍拡に走る当時の政権にいち早く警鐘を鳴らしていたのです。

◆ところが、あれから三十三年が経ち、防衛省は二〇一九年度予算の概算要求において過去最大となる五兆二九八億円を計上し、七年連続の要求増を見せています。隣国の脅威を理由に、防衛予算の拡大を目論む現政権の本当の狙いは何か、年金や社会保障費を減らし、「戦争のできる国づくり」へと予算をシフトさせているのではありませんかと危ぶまれます

二〇一八年十二月九日（日）護憲平和行進（通算622回目）

★月例護憲平和行進 毎月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合
浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市中区紺屋町三〇一―一五

日本国憲法第9条

日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。